

V. Ruggierius Trio Wien

ウィーンの薫り高い演奏を
楽しいトークとともに



チェロ
森川 敏子

ヴァイオリン
森川 耕太

ピアノ
黒木 由香

ウィーン V. ルジェリウス ピアノ三重奏団

ウィーンで出会った3人が、本場ウィーン仕込みの息の合った演奏と楽しいトークで素敵なひとときをお届けします。

2023 7/22 土

14:00 開演 (13:30 開場)

可見市文化創造センター ala 小劇場

Program

エルガー：愛のあいさつ
ブラームス：ハンガリー舞曲第6番
マスナー：タイスの瞑想曲
ヨハン・シュトラウス2世：ポルカ・シュネル「憂いもなく」
ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「南国のバラ」
シューマン=リスト：献呈
アイルランド民謡：ロンドンデリーの歌
クライスラー：愛の喜び
ドヴォルジャーク：スラヴ舞曲 作品72 第2番
ヨハン・シュトラウス2世：ポルカ・シュネル「トリッチ・トラッチ」
ヨーゼフ・シュトラウス：ワルツ「天界の音楽」

料金：全席指定 **2,000 円**

25才以下 1,000 円 ※4才から入場可

チケット発売：5月13日(土) 9:00

電話予約：翌14日(日) 9:00



サービスの詳細はアーラWEBサイトをご覧ください。

<チケット取り扱い>

可見市文化創造センター・インフォメーション
TEL.0574-60-3050 (9:00~19:00)
火曜休館 / 祝日の場合は開館・翌平日休み
<https://www.kpac.or.jp>

主催：ウィーン V. ルジェリウス ピアノ三重奏団
共催：公益財団法人可見市文化芸術振興財団

ウィーン V. ルジェリウス ピアノ三重奏団

*V. Ruggierius
Trio Wien*



1999年に森川耕太（ヴァイオリン）、森川敏子（チェロ）、黒木由香（ピアノ）によって結成。2000年より毎年日本演奏旅行を行い、質の高いウィーン風の演奏と曲目やウィーンに関する楽しいトークをマッチさせたコンサートは各地で好評を博し、一層幅の広い活躍が期待されている。プログラムはウィーン古典派からドイツのロマン派、そして親しみやすいJ. シュトラウス・ファミリーのウィンナワルツやポルカ、またウィーン派のヴァイオリニスト、F. クライスラーの作品のトリオアレンジ版も取り入れ、長年住み慣れた地元ウィーンの気質や感覚を前面に打ち出した解釈、演奏に取り組んでいる。

森川耕太

（ヴァイオリン）

Kota Morikawa, Violin



森川敏子

（チェロ）

Toshiko Morikawa, Cello



黒木由香

（ピアノ）

Yuka Kuroki, Piano



鶴丸高校、鹿児島大学教育学部音楽科卒。石井調、三鬼日雄、岩下ゆり子の各氏に師事。1984年、ウィーン留学。ウィーン市立音楽院（コンセルヴァトリウム）に於いてW. バリリ、G. シッヒに師事。在学中ウィーン市教育委員会より奨学金を受ける。1984年のザルツブルク夏期音楽講習会ではM. シュヴァルベに師事。室内楽をバリリ弦楽四重奏団、アマデウス弦楽四重奏団、アルテンベルク・ピアノ三重奏団、F. バルトロメイ、W. シュルツ、E. メルクスに師事。1991年に優秀な成績で卒業。同年ウィーン室内管弦楽団に入団。ウィーン楽友協会やコンツェルトハウスにおけるウィーン芸術週間に数多く出演。日本を含む数多くの海外演奏旅行を行う。世界的な指揮者、ソリスト達から多大な影響を受ける1993年よりウィーン・フォルクスオーバー歌劇場管弦楽団に第2ヴァイオリン副首席奏者として入団。2002年より6年間は、同交響楽団の役員をも務め、現在に至る。1999年よりハイドン・フィルハーモニー管弦楽団の第2ヴァイオリンの首席奏者として活躍中。ロンドンのプロムス音楽祭、ニューヨークのモーストリー・モーツァルト・フェスティバル、ザルツブルクのモーツァルト芸術週間に出演。ハイドンイヤーの2009年はヨーロッパ、日本、韓国への演奏旅行を行う。2009年には仲間と新しいオーケストラ、ウィーン・コンチェルト・クラシック・オーケストラを立ち上げCDを製作、2010年には日本演奏旅行でこのオーケストラの世界デビューを飾る。

【使用楽器】1700年頃クレモナでV. ルジェリウスにより製作され、代々ウィーン・フィルに伝わっていた古銘器。【使用弓】J. ユリー

静岡市出身。東京音楽大学に於いてヴァーツラフ・アダミール、荻田雅治、松波恵子の各氏に師事。1980～1983年、日本フィルハーモニー交響楽団に在籍し、室内楽のコンサートも数多く行う。1983年、ウィーン留学。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席奏者のF. バルトロメイ氏に当時唯一の弟子として5年間師事。室内楽をアルテンベルク・ピアノ三重奏団、A. アレンコフ、E. メルクス、F. バルトロメイに師事。1985～1992年、ウィーン室内交響楽団に於いて首席奏者を務める。1988年からウィーン劇場連盟オーケストラに首席奏者として1990年まで在籍。ウィーン、日本を中心に室内楽で活動中。1998年に黒木由香とピアノトリオ結成。1999年より森川耕太を迎えてウィーンV. ルジェリウスピアノ三重奏団を結成。2009年よりウィーン・シルヴァ・ピアノ三重奏団（Silva Trio Wien, 森川耕太＝ヴァイオリン、森川敏子＝チェロ、森美加＝ピアノ、ウィーン国立音楽大学専任講師）を結成。

【使用楽器】1700年代後半にウィーンでM. ティーアによって製作され、当時流行った暗いニスが特徴で室内楽に適したウィーン風の柔らかい音色の楽器。

【使用弓】J. フェティーク

ウィーン国立音楽大学ピアノソリスト科卒業。ディプロマ取得。ノエル・フローレス教授に師事。ウィーン市立音楽大学にて室内楽クラスを受講。アルテンベルク・ピアノ三重奏団に師事。これまでにアレクサンダー・イエンナー、ローランド・バティック、柴沼尚子、大島正泰、三宅洋一郎、山崎晴代の各氏に師事。ウィーン国立音楽大学在学中より、演奏活動を開始。1999年、ウィーンV. ルジェリウスピアノ三重奏団を結成。ピアノコンチェルトのソリストとしてリトアニア室内管弦楽団（サウリュス・ソンドツキス氏指揮）セントラル愛知交響楽団（小松一彦氏指揮）等と共演。室内楽で、上海クアルテット、名フィルメンバー、愛知室内オーケストラメンバー等と共演。ピアノソロとしては通常のリサイタルの他、「リストとショパン～ふたりの名ピアニストの物語～」 「フランス音楽」 「有名なピアノ曲」 「モーツァルト」等のテーマで曲目解説や作曲家のエピソードなどお話を交えた親しみやすいコンサートで演奏。音楽劇の音楽、即興的な舞台音楽、BGM制作にも取り組み、「シリーズ恋文」の音楽をVol.2から手掛けている。その他、新曲初演、伴奏など、ウィーン及び日本各地で様々な演奏活動を行う。またコンクールの審査員も務め、後進の指導にもあたっている。



アール感染症防止
対策WEBページ